

出雲を愛する農業人材の育成

～地域資源の再発見

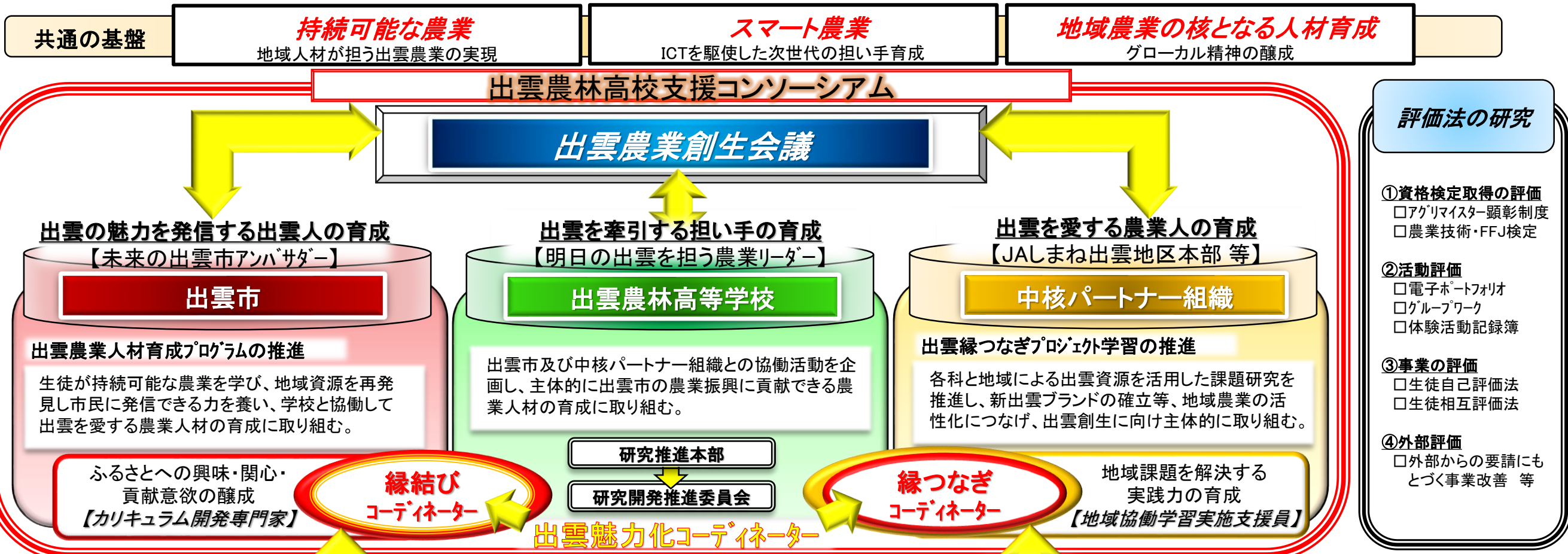
出農 地域創生プロジェクト～



求める人材・育てたい資質・能力

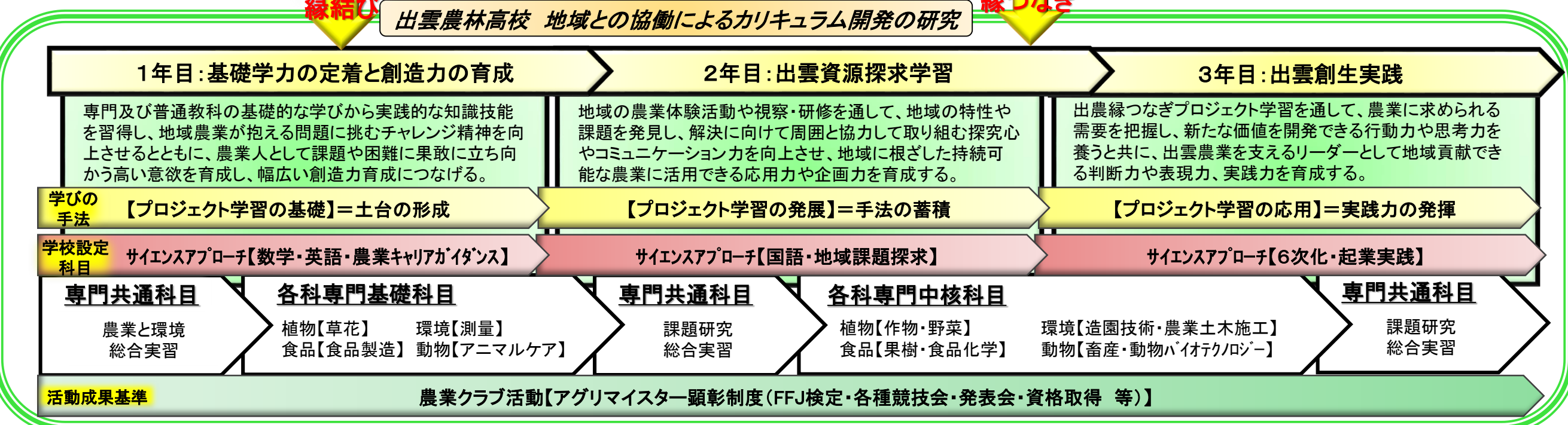
出雲創生力【企画力・実践力・創造力】

- 出雲の課題を組織で解決するために、周囲と協働して新たな価値や魅力を生み出そうとする 応用力・企画力 がある人材の育成
- 出雲資源の魅力や価値を理解し、主体的に地域創生に結びつける 行動力・実践力 がある人材の育成
- 地域の課題解決のために意欲的に学習活動に取り組み、習得した知識技能を未来創造につなげる 創造力 がある人材の育成



評価法の研究

- ①資格検定取得の評価
 - アグリマイスター顕彰制度
 - 農業技術・FFJ検定
- ②活動評価
 - 電子ポートフォリオ
 - グループワーク
 - 体験活動記録簿
- ③事業の評価
 - 生徒自己評価法
 - 生徒相互評価法
- ④外部評価
 - 外部からの要請にもとづく事業改善 等



ふりがな	しまねけんきょういくいいんかい	ふりがな	しまねけんりつゐものうりんこうとうがっこう
管理機関名	島根県教育委員会	学校名	島根県立出雲農林高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：島根県教育委員会

代表者名：教育長 新田 英夫

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：島根県立出雲農林高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：三島 一友

研究を実施する学科（プロフェッショナル型のみ）：

①単独学科での実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉
	○							
②学科連携による実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉

※学科には、総合学科における総合選択科目群を含む。

2 取組内容

出雲市と出雲農林高校の共通課題である「出雲農業の担い手・後継者の育成」に向け、出雲魅力化コーディネーター（縁結びコーディネーター・縁つなぎコーディネーター）とともに出雲市・出雲農林高校・中核パートナー組織（企業・研究機関等）との協働体である出雲農林高校支援コンソーシアム」を構成し、地域協働学習カリキュラムの開発を目的に研究を実施する。その結果、出雲市の未来創造につながる価値を生み出し、主体的に地域農業に結びつける「出雲創生力（企画力・実践力・創造力）」を育成し、地域の第一線で農業を支える「出雲を愛する農業人」として活躍できる人材の育成を図る。

出雲農林高校には、「研究開発推進委員会」を設置し、出雲魅力化コーディネーターの協力による、カリキュラム開発を実践する。具体的には、出雲地域を中心とした課題発見・解決学習の展開及び地域振興・新商品開発等プロジェクト学習の充実に向けて、基礎学力の定着、地域課題探求学習及び出雲創生実践に関わる学習を教育課程の中で展開する。

出雲市は、「出雲農業人材育成プログラム」を推進し、出雲農林高校の生徒が持続可能な農業を学び、学校と協働して出雲を愛する農業人材の育成等に関する支援を行う。特に、魅力的な地域資源を再発見するための情報提供と小・中・高校生が協働した地域農業体験学習等を展開することにより、出雲の魅力を発信する未来の「出雲市アンバサダーの育成」を目指す。

中核パートナー組織は、「出雲縁つなぎプロジェクト学習」を推進するため、島根県農業協同組合（出雲・斐川地区本部）を軸に、大学等の研究機関及び関連産業と高校生が協働で活動する地域課題解決型学習の充実に向けて、最新の農業技術や情報活用技術等の先端技術の情報提供をするとともに課題設定・検証・活動評価に協力する。

本研究の取組みは、1年次には、基礎学力の定着及び創造力の育成による知識技能、チャレンジ精神、意欲及び創造力の向上を目標とした「農業テクノロジー学習の展開」、「栽培・飼育プロジェクト学習による課題解決力の育成」及び「農業キャリアガイダンス」を展開する。2年次には、出雲資源探求学習による探求心、応用力、コミュニケーション力及び企画力の向上を目標とした「農業経営学習」、「持続可能な農業学習」及び「主体型経営基礎学習」を展開する。3年次には出雲創生実践学習による思考力、判断力、行動力及び実践力の向上を目標とした「環境保全事業」、「出雲資源を活用した共同開発」、「主体型経営実践による6次産業化活動」及び

「出雲農業アンバサダー活動」を展開する。これらの取組みによって、高校生の地域への興味・関心・貢献意欲が向上する。まずは、出雲農林高校と関係機関等との連携内容をコンソーシアムの構築時に再整理をすることで、組織的な農業人材の育成が促進されることが期待される。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
出雲農林高校支援コンソーシアム (出雲農業創生会議)	長岡 秀人 (出雲市長)

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

本研究における将来の地域ビジョン及び求める人材については、出雲農業創生会議で検討・協議をする。そして、校内に設置する研究開発推進委員会で各委員と共有するとともに研究内容等について出雲魅力化コーディネーターと協力して具体的な取組に反映するよう協議し、実施する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

本研究では、出雲農林高校支援コンソーシアムの円滑な運営を図るため「出雲農業創生会議」を構成し、本研究の具体的な計画・進捗状況の管理及び、今後の方向性について共有する。また、ふるさとへの興味・関心・貢献意欲の醸成を図るための「縁結びコーディネーター（カリキュラム開発専門家）」、地域課題を解決する実践力を育成するための「縁つなぎコーディネーター（地域協働学習実施支援員）」からなる「出雲魅力化コーディネーター」を指定する。これにより、「出雲の課題を組織で解決するために、周囲と協働して新たな価値や魅力を生み出そうとする応用力・企画力ある人材」、「出雲資源の魅力や価値を理解し、主体的に地域創生に結びつける行動力・実践力ある人材」及び「地域の課題解決のために意欲的に学習活動に取り組み、知識技能を未来創造につなげる創造力ある人材」の育成を図る。その基盤として、①持続可能な出雲農業の実現に向け、安全安心な農業学習及び地域資源の活用に関わる持続可能な農業学習を充実させる。②スマート農業の実現に向け、ICT 機器等を利用した情報活用技術に関わる学習を充実させる。③地域農業の課題解決に向け他者と協働しながら取り組み、習得した知識技能を広く発信するグローバルな精神を持つ、地域農業の核となる人材育成につなげる。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

本事業におけるカリキュラム開発専門家の役割は、①持続可能な出雲農業の実現のための農業学習を支援する。②ふるさとへの興味・関心・貢献意欲の醸成のためのカリキュラムの開発等がある。主な支援として、本校は平成 30 年度時点で GLOBALG. A. P 認証（ブドウ）や県 GAP 認証である美味しまね認証（水稻）を取得しているため、これらの認証を活用した安全安心な農業学習の深化に係わる支援等を想定している。また、小中学校に向けた食育協働活動等でこれら認証制度を広く普及できるような活動を柱として、カリキュラム開発に適時携わる。このことから、出雲市と出雲農林高校の協働活動をコーディネートすることから「縁結びコーディネーター」として、地域の農業行政機関に依頼して配置する。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

本事業における地域協働学習実施支援員の役割は、①各学科と地域による出雲資源を活用した協働プロジェクト学習の活動を支援する。②地域課題を解決する実践力の育成のための協働体制の構築等がある。現在、出雲農林高校では地域と協働した研究活動を各学科で実施している。これらの研究活動を効果的に、生徒が主体的に取り組めるよう、ICT 機器を活用するなど先端の技術の導入等プロジェクト学習の充実に随時携わる。このことから、中核パートナー組織と出雲農林高校の共同活動をコーディネートすることから「縁つなぎコーディネーター」として、地域農

業を支える島根県農業協同組合に依頼して配置する。

(6) 運営指導委員会の体制

運営指導委員を年2回開催し、事業の評価及び幅広い知見から指導・助言を行う。そのため、委員は、農業分野の専門家3名、教育分野の専門家2名で構成する。本事業では次の5名の運営指導委員に依頼をした。

氏名	所属・職名	役割・専門分野
黒田 富広	出雲地方農業士会・会長（有限会社黒田農場）	農業経営者の立場からの指導・助言・評価
原 幸生	島根県農林水産部農業経営課・管理監	カリキュラム開発に関わる指導・助言・評価
朝倉 祥司	公益財団法人しまね農業振興公社 就農促進課・課長	農業人材育成に関わる指導・助言・評価
岩本 悠	一般社団法人地域魅力化プラットフォーム・共同代表	コンソーシアムの運営に関わる指導・助言・評価
佐藤 睦也	島根県教育委員会・教育監	管理機関としての指導・助言・評価

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

本研究における成果の発表は、コンソーシアム主催の研究成果発表会（2月）の他、県内で開催される各種研究会・発表会に積極的に参加し、情報発信をすることで県内外への成果の普及を図る。

事業の検証は、2019年度から県立高校の全校で実施される「教育魅力化評価システム」において実施するアンケート調査の中で、本事業で育成を目指している「企画力」、「実践力」、「創造力」の3つの能力に関連する項目の結果をもとに事業効果を検証する。その結果をコンソーシアムの運営主体となる「出雲農業創生会議」で協議・検討し、取組の改善を図る。これに加え、各学科において協定を結ぶ事業者（株式会社テクノシステム、出雲地域GAP推進協議会、出雲コーチン利用促進協議会等）との研究報告及び研究評価会等を実施し、地域協働研究指標とする。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

① 管理機関における主体的な取組

- ・魅力化事業交付金事業
- ・明日のしまねを担うキャリア教育推進事業
- ・コンソーシアム設置モデル事業
- ・高校魅力化評価システムの構築
- ・コンソーシアムへの伴走
- ・島根大学及び島根県立大学との連携

② コンソーシアムによる先進的な地域課題研究に関する主体的な取組み

- ・ハマボウフウによる海岸緑化の研究（国土防災技術株式会社、株式会社テクノシステム及び島根県県土整備事務所と連携）
- ・校内環境整備に関わる研究（出雲市建設業協会青年部と連携）
- ・新品種のブドウ苗育成による産地振興研究（島根県農業技術センター、農産園芸課及び島根県農業協同組合と連携）
- ・出雲コーチン育種開発研究（島根県畜産技術センター、JA及び藤増牧場と連携）

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

県教育委員会は、2020年度から「高校魅力化コンソーシアム」を全ての県立高に設置を計画している。研究期間終了後も出雲市及び中核パートナー組織と関係を強化し、出雲地域農業を担う人材育成を継続できるように、コンソーシアムへの参画など実態にあわせた体制の構築を事業の実施期間中から検討する。また、県農林水産部・県教育委員会が連携した「地域の若い農業者育

成・定着支援事業」の中で、継続低位な事業の実施について支援の方策を検討する。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	しまねけんりつしづものうりんこうとうがっこう				②所在都道府県	島根県
2019～2021	①学校名	島根県立出雲農林高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	定員数	計 480名
植物科学科	40	39	37		116	(植物)	120名 (3学年)
環境科学科	33	32	38		103	(環境)	120名 (3学年)
食品科学科	37	40	39		116	(食品)	120名 (3学年)
動物科学科	31	39	38		108	(動物)	120名 (3学年)
⑥研究開発構想名	出雲を愛する農業人材の育成 ～地域資源の再発見 出農 地域創生プロジェクト～						
⑦研究開発の概要	本研究は、出雲農林高校、出雲市及び中核パートナー組織により出雲農林高校支援コンソーシアムを組織する。また、縁結びコーディネーター及び縁つなぎコーディネーターと協力しながら地域と協働した学習を展開することで、地域創生につながる「出雲創生力」を身に付けた、出雲を愛する農業人材の育成を図る。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>本校はこれまでに、地域農業を支える人材・専門的職業人育成に関わる文部科学省指定事業に取組み、「目指せスペシャリスト事業」や「地域産業の担い手育成プロジェクト事業」の各研究から、起業家精神を育み、地域資源を活かした農業関連産業の振興ができる人材の育成を図り、農業各分野のスペシャリスト育成を図ってきた。また、「高校生の基礎学力定着に向けた学習改善のための調査研究事業」により、学習意欲の向上及び基礎学力の定着を図ってきた。これらの取組により、地域農業を支える人材・専門的職業人育成に対して大いに期待されており、在校生の地域に対する興味関心や学びに向かう意欲は高い。</p> <p>出雲市は人口約17万人、島根県では松江市に次ぐ中核都市であり、出雲平野が広がり、古くから稲作を中心とした農業が盛んな地域である。しかしながら出雲市の農業就業者数は減少の一途をたどり、就業者の約7割は60歳以上と高齢化が進んでいる。したがって、出雲という立地及び資源を生かした農業を担う若年層の新規農業従事者を育成していくことは喫緊の課題であるといえる。そこで、出雲市と学校の共通課題である「出雲農業の担い手・後継者の育成」に向け、出雲魅力化コーディネーターとともに出雲市と学校との協働体制の構築及び地域協働学習カリキュラムの開発を目的に研究を実施する。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>本校は、地元地域を中心として年間約20回開催される移動動物園による学習を展開する動物科学科を始め、「ここでしか学べない経験・体験学習」をこれまでに数多く展開してきた。平成30年度は、食品科学科で栽培しているブドウにおいて中国地方初となる「GLOBAL G.A.P. 認証」を取得するなど、国際的に安全安心の評価を得ている農産物の生産管理を実践している。また、人と和牛づくり育種連携事業等、地域や関連産業と連携した共同研究を多く実践している。そのため、全県下のみならず県外からも生徒が入学しており、在校生の学びに向かう意欲は非常に高い。しかし、本校設置学科に関連する産業への就職割合は30～40%台にとどまり、県内の農業後継者及び若い担い手育成の観点で地域農業振興に向けた人材育成が課題となっている。そのため、本研究において、農業人材の育成を実施できる環境体制を出雲市、地域関連企業等と構築することで、課題としてあげた県内の農業後継者及び若い担い手の育成、地域ネットワークの強化等につながり、出雲市の農業振興がより実現されることが期待される。</p>					

<p style="text-align: center;">⑧- 2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>本研究では、各学科専門共通科目、専門基礎科目及び専門中核科目を設定し、3か年で出雲創生力の育成を図る。そのため、専門科目に加え、学校設定科目であるサイエンスアプローチによる基礎学力の定着に関わる学習や、農業キャリアガイダンス等による地域学習の充実につながるよう、プロジェクト学習に取り組む。また、普通教科において、専門教科の内容を取り入れた授業展開を進めることで、生徒は学科や専門分野と普通教科との共通点を発見することができる。これにより専門分野への興味関心や普通教科への学習意欲の向上を図る。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本研究におけるカリキュラム・マネジメントの推進は、基礎学力推進委員会を中心に研究を行う。これにより、地域との協働による探求的な学びを実現するための教育課程編成に関わる検証を実施する。検証結果は、研究推進委員会やコンソーシアムを通してより適切なカリキュラム編成となるように、各学科の役割及び内容について検討する体制を構築する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑨ そ の 他 特 記 事 項</p>	<p>(1) 地域との協働による学習効果を高めるための取組</p> <p>本校では、生徒が主体的に経営を実践し、6次産業経営を体験的な活動を通して経験する出農ショップや、出雲市内を中心に年間20回開催される「移動動物園」等を実践している。これらの取組により、生徒は日頃より地域との関わりを密に取っている。また、和牛甲子園の出場に向け、地域関連機関との共同研究により、最高等級肉の生産に成功し出雲市の畜産業に貢献する等地域課題解決に向けた活動を実践している。このような地域関連産業との協働学習により、生徒達の地域に対する興味関心は高い。したがって、本研究において地域との協働活動を充実させ、生徒がより地域とのつながりを実践することで更なる活動深化を図る。</p> <p>(2) 生徒学習満足度向上のための評価指標の設定</p> <p>本事業は、学校内における教員間の連携のみならず、地域の関連機関との連携による学習改革を図るものである。この、教員、生徒及び地域関連機関が連携し協働学習を進める上で、生徒の興味・関心・意欲の向上が重要である。したがって、その基盤となる生徒の「学びに向かう姿勢」及び「主体的対話的に学ぶ意欲」を向上させるための重要評価指標（KPI）を設定することで教員及び地域関連機関との生徒支援基準を共有できるシステムを構築し、事業の実施により生徒の学習意欲向上が図られたかを客観的に評価する。</p> <p>評価の方法は、資格取得状況、活動記録簿、各種アンケート（生徒自己評価等）、パフォーマンス評価及び外部評価をもとに客観的に検証する。アンケート調査項目は、生徒の興味・関心・意欲を向上させる上で必要と思われる項目を抽出し、「主体的対話的に学ぶ意欲」17項目（設問17問）、「学びに向かう姿勢」14項目（設問14問）の合計32設問によって調査を実施する。</p> <p>(3) 島根県高等学校魅力化アンケートの活用</p> <p>2019年度から県立高校で実施予定の「高校魅力化評価システム」において実施されたアンケート調査をもとに本事業の成果目標とする。</p>